

日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|---|-------------|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | 特になし | 特になし | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 | 太平洋・津軽海峡沿岸で、6月上旬～中旬にかけて、例年ではまだ漁獲されない箱(5kg)15尾～20尾入りの大型スルメイカが主に定置網で漁獲された。その後、日本海の小泊・下前でも6月下旬から同サイズのスルメイカが少量ながらも見られている。 | 特になし | 特になし | 特になし |

機関名: 秋田県農林水産技術センター水産振興センター

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|---|-------------|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | 底びき網におけるマダラは1月が県北部で豊漁、2月は中央部が豊漁であったが、全体としては一昨年比71%、昨年比133%。06年級はほとんど水揚げされていないものの、やや浅所での操業では多く入網するとの情報有り。 ハタハタは混獲主体であるが、昨年比420%、一昨年比166%。08年級がほぼ100%。 | 特になし | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 | ハタハタは昨年比2.5倍、一昨年比10倍。調査船調査において200～250mで従来ほとんど出現しなかった1歳魚の大量採捕が続いた。早い時期には大型魚と小型魚が水深により明瞭に棲み分けしていたが、徐々に小型魚が深所へ移動し、6月には混在していた。 スルメイカは6月前半までは不調であったが、6月末には昨年比178%、一昨年比119%となった。 フリ類は各銘柄とも好調に推移し、昨年の倍増となっている。 | 特になし | 特になし | 特になし |

機関名: 山形県水産試験場

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|--------|-------------|---------|---|
| 平成21年 1月～3月 | | | | |
| 平成21年 4月～6月 | | | | ・6月上旬からアカクラゲやミズクラゲが沿岸域に來遊し、量の多少はあるが、さし網や定置漁業の操業の障害となった。 |

機関名: 新潟県水産海洋研究所

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|--|-------------|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | ●ヤナギムシガレイ ・1～2月豊漁。主要8地区前年比177%、 平年比(過去5年)141%。 ●ハタハタ ・豊漁(殆どH18年級群)。1～3月前年比 708%、平年比351%(出荷調整あり)。 ●タコ類 ・1～3月のタコ類(特にミスダコ)が不漁。 前年比59%、平年比62%。 | | | |
| 平成21年 4月～6月 | ●クロマグロ ・佐渡の大型定置網に4月から入網した (通常より1ヶ月速い)。 ●ハタハタ ・豊漁(殆どH18年級群)。4～5月前年比 377%、平年比180%(出荷調整あり)。5月 以降、H20年級群が相当量混獲。 ●ソウハチ ・1～5月前年比252%、平年比249%で漁獲 量が急増。 | | | |

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

| 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|--|-------------|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 ●ハタハタ 3月を中心に好漁となった。 1～3月の合計漁獲量は126トンで、過去10年(H11～20年)の同期間平均漁獲量(14トン)の約9倍となった。 | 特になし | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 ●ハタハタ 引き続き4月を中心に好漁となった。 4月及び5月の合計漁獲量は75トンで、過去10年(H11～20年)の同期間平均漁獲量(9トン)の約8倍となった。 | 特になし | 特になし | 特になし |

機関名: 石川県水産総合センター

| 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|---|---|-----------------------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 ●漁獲量 ブリの回遊が遅れ、前年末～1月になって前年、平年を上回り、累計で平均をやや上回った。 定置網のスルメイカは2月になって上向きになったが前年に引き続き不漁。 まき網のマサバが不漁。 ズワイガニ、コウバコガニは平年並み。 ハタハタは前年並みであるが、輪島・蛸島では好漁だったものの、加賀・西海では不漁など、明暗が分かれた。 | ●水温 2月はほぼ平年並みで推移。 3月は能登半島西方沖に暖水域が形成され、やや高めとなった。 | ●アカモク 増養殖技術を確立した。 | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 ●漁獲量 サワラは内浦海域で平年を大きく上回り、前年に引き続き好漁。 定置網のスルメイカは5月にまとまり、累計でも平年を上回った。 マグロは近年の平均並みで推移。 ハタハタは平年並みであるが、加賀海域では不漁であり、好漁だった能登との地域差が継続した。 まき網はアジ、サバともに平年を下回り不漁。 | ●水温 4、5、6月は3月から引き続き、外浦海域では高め傾向が継続。 | ●トラフグ 資源増大事業に着手した。 | 特になし |

機関名: 福井県水産試験場

| 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|---|-------------|---|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 特になし | 特になし | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 最近、定置網にカギイカがよく混入するようになった。 | 特になし | 天然ワカメの収穫量が前年に比べ、1/3～1/2以下と少なかった。 また、養殖ワカメも水温や天候の関係から生育状態は悪かった。 | 特になし |

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

| 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|---|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | | | ◎府底曳網漁業者が水ガニを自主禁漁 |
| 平成21年 4月～6月 | ◎4～5月、オキクラゲが多く出現。ミズクラゲとともに定置網にも入網し、操業に支障を来した。 ◎6月には、伊根湾でクリイロカメガイが出現した。 | | |

機関名: 兵庫県立農林水産技術総合センター

| 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|---|-------------|---------|--------------------------|
| 平成21年 1月～3月 ●ベニズワイ、ズワイガニ ・1、2月好漁 ●アカガレイ ・1、3月好漁 ●ソウハチ、ハタハタ ・1～3月不漁 (対過去10年平均) | 特になし | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 ●アカガレイ、マダラ、ベニズワイ、クロザコエビ類 ・4、5月好漁 ●ソウハチ ・5月不漁 ●ハタハタ ・4、5月不漁 (対過去10年平均) | 特になし | 特になし | ●漁業調査船代船建造工事 ・進水式(4月) |

機関名: 鳥取県水産試験場

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|--|---|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | <p>マイワシ: 今期の水揚量は392トンで3月にわずかに漁獲されたが低調。</p> <p>ウルメイワシ: 3月にまとまった漁獲があり、今期は1,375トンで前年を上回った。</p> <p>カタクチイワシ: 今期は5,862トンで2月下旬から漁獲が増えてきた。</p> <p>マサバ: 今期は7,547トンで前年を大きく上回った。</p> <p>マアジ: 今期は4,818トンで前年を下回った。</p> <p>ズワイガニ: 11～3月のズワイガニ水揚量は1,081トンで前年(1,381トン)を下回った。雌雄ともに大型個体の減少が目立った。</p> | <p>今期の表面水温は「平年並～やや高め」であった。</p> <p>水温偏差では沿岸より沖合で高め傾向であった。</p> | 特になし | 特になし |
| 平成21年 4月～6月 | <p>ケンサキイカの漁獲が低調 鳥取県における4～5月の漁獲量は340kgで前年から引き続き低調であった。原因についてはよくわかっていない。</p> <p>スルメイカの漁獲が低調 境漁港における4～6月漁獲量は54tで前年比36%、平年比18%と低調であった。5、6月は外套背長10cm未満のスルメが表層を遊泳することが多く見られた。</p> <p>マアジ幼魚の新規加入量は過去最高 マアジ新規加入量調査(5、6月)において今年の幼魚の加入量は2003年の調査開始以来最高の水準であった。また、5月のマアジ漁獲量は前年比180%、平年比130%と好調だった。</p> <p>クロマグロの水揚は低調 6月の水揚状況 水揚本数5、146、水揚重量256トン、平均体重49.8kg 好調であった前年に対し、水揚本数は約15%、水揚重量は約17%の水準 前年6月の平均体重は、44.7kg</p> | <p>表面水温全般に平年並み 沿岸部の表面水温において、4月は平年より「やや高め」だったが、5、6月は「平年並」で推移した。</p> <p>対馬暖流 対馬暖流が隠岐海峡および隠岐島北方から沿岸に流れ込んだため、本県沿岸東部ではスルメ漁場が形成された。</p> | 特になし | 特になし |

機関名: 鳥取県水産試験場沿岸漁業部(旧鳥取栽培セ)

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|---|--|---------|----------------------|
| 平成21年 1月～3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・3月マダコ好調 ・アカガレイ好調 ・ハタハタ大型化(ジンタン少ない) | <ul style="list-style-type: none"> ・過去10年平均水温に比べ0.6℃高め | | |
| 平成21年 4月～6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワカメ不漁 ・マダイ稚魚の発生良好 ・サゴシ不漁 | <ul style="list-style-type: none"> ・4-5月: サルバが多く出現 オキクラゲが多く出現 ・5-6月: ミズクラゲが多く出現 ・4-6月: 過去10年平均水温に比べ0.4℃高め | | |

機関名: 鳥根県水産技術センター

| | 水産資源関係 | 水産海洋・漁場保全関係 | 水産増養殖関係 | その他(水産利用加工、水産経済、災害等) |
|----------------|--|---|---------|--|
| 平成21年 1月～3月 | <ul style="list-style-type: none"> ●1月に東部の出雲地区の定置で、ブリの漁獲量が平年の10倍であった。 ●2～3月には、沖底、小底とも、ケンサキイカの漁獲が不調であった。 ●3月に浜田の沖底でニシンが多獲された。 ●1月23日に隠岐郡西ノ島町由良湾にスルメイカの大量が打ち寄せられた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●1～3月の浜田、恵曇の沿岸水温は、平年より0.5から1.0℃高めで推移した。 | | |
| 平成21年 4月～6月 | <ul style="list-style-type: none"> ●4～5月の、沖底、小底のアカムツの漁獲は好調であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ●4～5月の浜田、恵曇の沿岸水温は、平年より0.5から1.0℃高めで推移した。 | | <ul style="list-style-type: none"> ●6月に宍道湖、中海において4年ぶりにまとまった数のコノシロのへい死が認められた |